

## 6.4 教育成果のあり方

### 進捗状況報告

2つの目標について、2005年の自己点検・評価で指摘した状況とその理由は現在も変わっていない。これらの課題のうち、今後は、前期課程、特に、社会的評価に耐えうるレベルの高度専門職業人の短期間での育成を目指すエキスパートコースの教育・研究指導の現状を把握し、不十分であればその確保のあり方、またこれと密接に関連する成績評価の透明性の向上について、優先的な検討が必要である。

### 学内第三者評価

現状の教育方法や研究指導方法は適切に効果を上げていると思えるが、エキスパートコース導入などによる入学生の多様化にともない、教育・研究指導の効果測定や成績評価法について「厳しい目で見直すところから始める」（2005年度の「改善の具体的方策」）とあり、2007年度の進捗状況にも「優先的な検討が必要である」と記されている。早急な取り組みが求められる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。  
・問題のありようを根本的に見直すべきではないか、との自己評価に敬意を表したい。教育・研究指導の目標（学生にどのような能力・知識を身に付けさせるか）が具体的に意識されないと、評価の座標軸が定まらない。大学院での教育は少人数で個々の学生に合わせた個別の指導になることが多い。それはそれで非常に優れた方法であるのだが、現在は教育・研究指導にも客観性・体系性・組織性・説明責任が求められるので、従来のきめ細かな配慮に加えて、研究科の理念に沿った体制を構築することが望まれる。